

教科	課題（現状、傾向、課題分析）	改善プラン（改善のための具体策や取組）	成果(○)と課題(△)
国語	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを聴き手に伝えようと、話し言葉を用いたり、身振り手振りを交えたりして表現する児童が増えた。 読書に親しみ、様々な分野に関心を広げている。 物語文では、情景描写や比喩表現から主人公の心情の変化を正確に読み取れるようになってきた。 俳句や短歌の学習では、日常生活の一部分を切り取り、言葉を選んで表現している。 作文では、段落分けや改行、句読点の打ち方が適切にできない児童がいる。 文法や漢字の定着、語彙力に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 制限された中であるが、皆の前に出て話す場面を増やす。また、映像資料を用いて話し方の工夫を知る。異学年の児童や（中学生に）聴いてもらい、聴き手に応じた話し方ができるようにする。 様々な文章に触れる機会を設け、優れた表現を見付けたり、全体像を捉えたりすることができるようにする。 学期に2回ずつ俳句、短歌をつくる。四季（二十四節気）の言葉を大切にするとともに、限られた文字数の中で、表現を工夫できるようにする。 文法、漢字についての学習を、けやきタイムや業間の時間を活用して定期的に行い、定着を図る。 国語辞典、漢字辞典を引く習慣を身に付けさせるよう、環境を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○感染予防のため、異学年や他校種に向けての発表はできなかったが、スピーチや紙芝居、表現の日の取組を通して目的に応じた様々な表現の工夫が見られた。 ○休み時間などにすすんで読書に取り組んでいた。教科書の教材に関連する本を読む姿も見られた。 ○俳句・短歌作りは、多くの季節の言葉に触れる機会となった。 ○目的に応じて必要な情報を選択しながら読み、それについての考えをまとめる力がついてきた。 △語彙力、文章力に個人差が見られ、個別に指導した。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 学習したことから疑問を見付け、学習問題をつくることができている。 政治や歴史が自分の生活と関わっていることに気付き、ニュースや歴史の本に関心を高めている。 課題に応じた資料を選択し、必要な情報を正確に読み取ることができない児童がいる。 歴史に興味をもって学習に取り組む児童が多い。 今昔の地名を結び付けて、地図上で位置関係を把握することに苦手意識をもっている児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ノートへの学習感想や前時の振り返りを通して、児童の疑問を把握していく。 社会情勢に興味関心をもてるよう、朝の会や帰りの会で出来事について話題提示する。 なぜその資料を選択したのか理由を問う。また、資料から分かる事実だけでなく、何が分かるのかまで問い返す。 地図帳を活用して、資料集での位置と、現在の位置を比較できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の疑問から、歴史的事象の背景を探ることができた。 ○教科書や資料集、地図帳、図書資料、インターネットなどから課題に応じた適切な資料を選択できるようになった。 △写真などの分かりやすい資料に頼りがちな児童がいた。複数の資料から考察するなど、更に資料を読む力を伸ばしたい。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 既習内容を生かして課題解決を図ることができ、複数の考え方で答えを導き出せるようになってきている。 分数同士のわり算では、被除数と除数の区別・判断をし、立式することを苦手にしていく児童が多い。 既習の通分や約分に課題が見られる。 コンパスや分度器を正確に扱えない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 図や式、言葉を用いて説明するよさを理解できるよう、引き続き指導する。 根拠をもって演算決定できるよう、題意や単位に着目して数直線に表すよう言葉掛けをする。また、答えの見通しをもって計算できるようにする。 定期的なけやきタイムや宿題で問題に取り組み、解法を身に付けられるようにする。 作図の手順をノートに書き、描き方を明らかにすることで、用具の使い方理解できるようにする。 算数的活動を多く取り入れ、日常生活の中で活用でき 	<ul style="list-style-type: none"> ○題意を理解して、演算決定のための表現ができるようになってきた。 △図や式はかくことができているが、わり算の問題では、被除数と除数の区別・判断が適切にできない児童が見られた。分数や小数の場合のわり算の意味を、再度確認する必要があった。 △倍数、約数、通分、約分の内容理解は十分とはいえない。

		るようにする。	○コンパスや分度器の操作は、個人差があるものの、目的に応じて活用することができるようになった。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・実験や観察に意欲的に取り組み、様々な事象への関心を高めている。 ・事象から疑問を見出し、解決するための実験方法を考えている。そのため、考察内容が明確になってきている。 ・顕微鏡などの器具を正しく使えない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題、教材提示を工夫する。身近なものから課題をみつけられるよう、教材開発を行う。 ・引き続き、仮説を確認し、それを確かめるための実験方法を複数考えられるようにする。 ・実験前に、器具の正しい使い方を説明する。 ・既習の器具であっても、一問一答形式で使い方を問い、確認をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が課題に気付き、実験方法を考えたことで、容易に考察することができるようになった。 △実験器具については感染状況をふまえ、共有できないものがあつたため、操作を伴わない理解にとどまったものもある。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・曲を分析して、歌詞の意味や強弱を考える児童が多くなった。2学期はこれを基に、自分が分析した音楽をうまく表現できるよう準備を行う。 ・音が出せない中、リズムがうまくとれなかったり音の感覚が分からなかったりする児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期に分析した楽譜を再度見直し、ペアやグループで発表し合う中で、曲想を深めていく活動をする。 ・同じパートの楽器同士やグループ学習を用いて互いのわからないことを教えあつたり聴きあつたりする活動を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○リズム作りの活動では自分の音を工夫して発表することができた。 ○合奏や合唱では、楽譜を分析して音符や強弱記号や作曲者の思いを考えることができた。 △短時間でのペアやグループ学習だったため、音の重なりを考え深めることができなかった。来年度は、短時間のペア学習をプリント学習などで意見を出し合うなど、互いの音を評価し合う場面を設定していく。
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・自力解決ができない。自分の感覚を通して形や色などを捉えることができない。 ・既習事項を生かして表現できていない。 ・自身の作品や活動に満足していない。自分たちの作品や身近な材料などを楽しく見る視点がもてない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が主体的に授業に参加できる導入の工夫。体験的な学びから自分のイメージがもてるようにする。 ・表したいものに応じて経験した技法を選択できるようにする。 ・自分や友達のよさに気付くよう教師が言葉かけを行う。鑑賞活動の設定。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の感覚を通して形や色などをとらえるように意識させる活動や、技法を選択する場面を多く設定することで主体的に活動できる児童が多く見られた。 △既習事項を生かして表現できていない。計画的な造形体験を積み重ね、技能の定着を図る。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活を改めて振り返って課題を見つめ、改善しようとしている。 ・実習などが制限されるため、衣食住に関する様々な用語を、実感を伴って理解することが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・起床、就寝時間など長期休業前後に振り返る時間を設ける。 ・生活と結び付けて学習できるように、家庭と連携しながら学習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○手縫いやミシン縫いなどに慣れ、トートバッグ製作では、円滑に作業を進めることができた。 ○限られた条件の中、自己の衣食住に関わる家庭生活を振り返ることができた。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・運動に親しみをもって取り組んでいる。 ・これまでの学習の積み重ねが成果となって表れ、技能が高まってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き接触などが軽減できる運動内容を開発する。 ・ICT機器を活用し、自分の動きを運動後に振り返ることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○用具や人数を工夫して運動に親しむことができた。 ○器械運動、陸上運動ではタブレット

	<ul style="list-style-type: none"> 課題や友達のよさを具体的に捉えることができていない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 体育ノートを活用し、児童一人一人が自分のめあての振り返りや友達のよさを具体的に記録している児童を称賛し、広める。 	<p>端末で録画、追っかけ再生機能を用いて、自分の動きを確認し、課題解決を図ることができた。</p> <p>○自分だけでなく、友達の技能の向上を図ろうと、練習や作戦を工夫したり協力、応援したりする姿が随所に見られた。</p>
<p>外国語</p>	<ul style="list-style-type: none"> 英語でのスピーチに慣れ、意欲的に表現を工夫しようとする児童が増えている。 生活様式や文化の様子から、日本語と英語表現の違いを理解し、楽しむことができています。 書く活動を苦手としている児童が多い。英語の綴りとローマ字での表記を混同している。 	<ul style="list-style-type: none"> 表現の工夫を楽しむことができるよう、複数の選択肢を準備する。 A L T、講師と協力し、アクティビティの開発をする。 書く学習を日常的に取り入れ、抵抗感をなくして自信をもたせるように指導する。 日常的に英語の綴りに触れることができるよう、教室や廊下の壁面に掲示物を貼付する。 	<p>○ジェスチャーだけでなく、写真や実物をもって紹介する児童が見られた。</p> <p>○A L Tが開発したアクティビティに、児童は意欲的に取り組み、簡単な英語表現に親しむことができた。</p> <p>○英文で自己表現することに慣れ、工夫する児童が増えた。</p> <p>○聞く力が全体的に高まった。</p> <p>△小文字がまだ完全に身に付いていない児童がいる。</p>